


不思議な旅

こんな本  
  
読んでみて

August - September 2018

No. 72



## 目次


MIETAN 本つなぎ 第2回	1
不思議な旅	5
Book design の世界 vol.3	9
ちょこちょこ日記 #12	12



三重短生のおすすめ本をリレーして  
三重短を本でつなげたい！



今回の本つなぎメンバーは  
こちらの2人★



図書館ボランティア部キャラクター  
ライブラリアン

渚さん  
生活福祉・心理コース  
1年

きょんきょんさん  
経商コース  
1年

— 「MIETAN本つなぎ」第2回は、前回のペーじゅんさんとこいとさんからご紹介の渚さんときょんきょんさんの登場です。図書館ボランティア部のお二人です。よろしくお願いします。

**渚・きょんきょん** よろしくお願ひします。

— まずは、渚さんからおすすめの本を紹介してください。

**渚** 『星をさがして』(張間ミカ著/徳間書店)です。星が大好きな少女ガートルードが、星を集めた部屋を作ろうとする物語です。猫の姿をした神様ノクスを呼び出して、けっこうあくどいことします。なぜそこまで執着するのかというバックストーリーがあって、ガートルードの過去がわかるシーンが好きです。

**きょんきょん** 本当におもしろそう。絵がかわいいね。



**渚** 絵は人気のミギーさんですね。描写がきれいでおすすめの1冊です。2冊目は『うみまち鉄道運行記』(伊佐良紫築著/KADOKAWA・富士見書房)という短編集です。サンミアという都市で地震が起きて数年後の話で、震災で両親を亡くしたメグとシャーリーは、電車の運転士・車掌になります。震災から街が復興する物語です。3冊目は『楽園まで』(張間ミカ著/徳間書店)です。雪が降り続ける世界で、特殊能力を理由に追われながらも、みんなが幸せに暮らせる楽園を目指す話です。

**きょんきょん** 世界観がわかっておもしろい！





ー 続いて、きょんきょんさんお願いします。

**きょんきょん** 私が大阪出身ということで『夢をかなえるゾウ2』(水野敬也著/飛鳥新社)を紹介します。ゾウの姿をしたガネーシャという神様と、売れない芸人が組んでお笑いの頂点を目指すお話です。ガネーシャは関西弁でちょっとうさんくさいんですね。「ちょっとハワイ行っとってん」とか。(笑)

**渚** 神様なのに人間らしいところもあるんだね。(笑)

**きょんきょん** 1・2・3とどれもおもしろいのですが、この2はお金に関わる話です。自己啓発本と小説がコラボした感じの本です。人生においてのちょっとしたヒントになるような、ためになる話が多いです。2冊目は、『英雄の書 上・下』(宮みゆき著/毎日新聞社)です。小学生の女の子が主人公で、兄が事件を起こし失踪した理由を探っていきます。つらい現実と向き合いながら成長していく物語です。それまで犯罪の被害者のことを考えることはあっても、加害者の家族のことを考えたことがなかったので、10回は読みました。3冊目は、『ヘヴン』(川上未映子著/講談社)。これも重たいんですけど。クラスでいじめられている男の子にスポットがあたって。淡々とどういう風にいじめられたかが書いてあって、つらいんですけど。最後読んだ時に、心が無になってしまったような気持ちになって。いじめって何なんだろうと考えさせられる一冊です。

ー 夏におすすめの本はありますか？

**渚** 『ROUTER』(西村悠著/一三書房)です。朝起きたら世界が終わってました、っていうところから始まるんですけど。季節は夏で固定されたまま。人間が望んでいることを何でもすべて叶えてしまう幻想病で滅んだ世界で、記憶喪失のルータとシノツクが旅する話です。夏にぴったりです。

**きょんきょん** おもしろそう。本当に読みたいな！私はマンガなんですけど、『ぼくらの』(鬼頭莫宏著/小学館)です。夏休みに少年少女15人が、地球を守ってね、と機動装置に乗ることになって。中学生が自分の死と向き合うんです。高校卒業してから読んだので、もっと早く読めばよかったです。夏休みに読んでほしいです。

ー 本はいつも持ち歩いて読んだりしますか？

**渚** 持ち歩いてますね。通学が電車で往復2時間くらいなので。

**きょんきょん** 私もアルバイト先がちょっと遠いので、バスや電車で、すきま時間にちよこちよこ本を読んだりします。



### ● 3つの質問 ●

ー お二人に3つの質問。まずは、①今はまっているものを教えてください。

**渚** 私がはまっているものは手芸です。ミサンガやアクセサリーを作ったりしてます。

ー 作ったものを今持ってますか？

**渚** 持ってます。これですね。(手作りの腕時計を見せてもらう→)



**きょんきょん** すごい！これ売り物じゃない！？

**渚** これはマクラメという編み方で、手でひたすら編んでいきます。

**きょんきょん** 小さい頃から手先が器用な方だったの？

**渚** うん。小さい頃から編み物したりして。中学の頃に家庭部に入っていて、高校の頃も衣生活コースだったので。細かい作業が好きですね。

ー また新しい作品ができれば見せてくださいね。続いて、きょんきょんさん。



**きょんきょん** スマホゲームです。「消滅都市」にはまっています。ある都市が消滅したところからストーリーが始まるんですね。謎の少女ユキと運び屋のタクヤが、消滅してしまったロストヘバイクで向かっていくアクションRPGです。この前、東京であった「消滅都市」の4周年イベントに行ってきました！



ー どんなイベントだったんですか？

**きょんきょん** 私の感覚で言うと株主総会みたいなものなんですけど。まず発表会で、今年するコラボや、アニメ化しますっていう色々な発表がありました。声優さんの朗読劇があって。BGMもすごいので、DJさんが来てライブ形式で盛り上がりました。

ー 盛りだくさんなイベントですね。このゲームの魅力はどんなところですか？

**きょんきょん** 絵がすごくきれいなんですね。それから、ユキは魂を呼び出せるんですね。消滅に巻き込まれた魂が出てくるたびに、それぞれの生い立ちや思いがわかってくるので。スマホゲームで初めて泣きました。

ー 次は、ペーじゅんさんからの質問です。②休みの日、どこに行く？何してる？

**渚** 私は、ひたすらレポートしてます。

**きょんきょん** レポート多い？渚さんに会うといつもレポートしてるよね？

**渚** こっちが終わったと思ったら、他の科目のレポートが出る感じで。あとは、友達と名古屋におでかけしたりもするかな。

**きょんきょん** 私は、休みの日はアルバイトですね。スーパーの試食販売をするマネキンさんの仕事をしてまして。その人の実力が売り上げの数字で出てしまうのですが、一度、私が在庫を全部売り切って帰ったこともあります。スケジュール帳が、ありがたいことにまっくらなんです。ほとんどおうちにいません。(笑)

渚 アニメとか見たりする？

きょんきょん 今は見れてないけど、「黒執事」とか好き。かっこいい。現代のも好きだけど、「ジョーカー・ゲーム」とか異世界のファンタジー系が好き。

渚 分かる。私は「うらら迷路帖」とか「NARUTO」とか。恋愛ゲームが原作の「CLANNAD」とか好き。重たいけど。

きょんきょん 重い方がよくない？現実を忘れられるから。(笑)

渚 重たいの、いいよね。(笑)

—最後の質問はこいとさんから。③好きなタイプ、教えてください。

渚 趣味の合う人です。ゲームとか好みのあう人がいいですね。

きょんきょん うんうん。好きなことを隠しながら過ごすのもしんどいよね。

渚 友達感覚の方がいいかな。価値観とかも同じ方がいいな。

きょんきょん 私は博学な人ですね。今どんなことを勉強してるの？って聞いたときに、こういうことを勉強してるよってちゃんと話してくれるような、地に足がついた人。ちょっと抜けてる人もかわいかったり。結局、好きになった人がタイプだよ。

渚 ね！だよ。

—今日は本の話をはじめ、色々なお話を聞かせてくれてありがとうございました。今日話していてとても趣味が合いそうなお二人、これをきっかけにもっと仲良くなってもらえたら嬉しいです。今日はありがとうございました。

渚・きょんきょん ありがとうございました。

# 不思議な旅

本日ご案内させていただくのは、

入れ替わったり、巻き戻ったり、繰り返したり…

そんな不思議な世界。

それでは、出発しましょう。



『小説  
君の名は。』  
新海誠 著  
KADOKAWA 2016  
913.6||Sh 64

文字で読む『君の名は。』もいい。  
高校生の三葉と瀧が起こす奇跡の物語。  
「俺は夢の中でこの女と—  
私は夢の中であの男の子と—  
入れ替わってる!？」



『民王』  
池井戸潤 著  
文藝春秋 2013  
913.6||I 33

総理大臣の武藤泰山と、その息子・翔  
の中身が入れ替わった!?この国どうなる!  
!?痛快政治エンターテインメント。  
「オトナになろうぜ、みんな」



『この嘘が  
ばれないうちに』  
川口俊和 著  
サンマーク出版 2017  
913.6||Ka 92

『コーヒーが冷めないうちに』の7年後を描いた続編。  
過去に戻りたいあなた、喫茶店フニクリフニクラへどうぞ。そこにはめんどくさいルールがありますが…。



『パドルの子』  
虻川枕 著  
ポプラ社 2017  
913.6||A 14

屋上の水たまりで美しく泳ぐ彼女。  
「パドルをしながら強く何かを願うと、世界をひとつだけ変えられる」という。ささいな違和感、お見逃しなく。

今回の MIETAN 本つなぎ

★…三重短図書館にあります

●渚さん●

『星をさがして』(張間ミカ著/徳間書店),  
『うみまち鉄道運行記』(伊佐良葉著/KADOKAWA・富士見書房), 『楽園まで』(張間ミカ著/徳間書店), 『ROUTER』(西村悠著/一二三書房)

●きょんきょんさん●

『夢をかなえるソウ2』(水野敬也著/飛鳥新社), 『英雄の書 上下』★(宮部みゆき著/毎日新聞社), 『ヘヴン』(川上未映子著/講談社), 『ぼくらの』(鬼頭莫宏著/小学館)

2



次の2人へ  
本つなぎ。  
次回もお楽しみに♪

4

5





『ぼくは明日、  
昨日のきみと  
デートする』  
七月隆文 著  
宝島社 2014  
913.6||N 48

ぼくが一目惚れをした女の子。  
彼女には大きな秘密があった…。

「あなたの未来がわかるって言った  
ら、どうする？」切ない運命の  
2人の物語。



『今日も君は、  
約束の旅に出る』  
瀬那和章 著  
講談社 2017  
913.6||Se 57

女優を目指すアオの前に突然現れ  
た久太郎。絶対に約束を破ること  
ができない体質になったという久  
太郎は、約束の時が来るとワープ  
してしまう。約束が彼と私をつな  
いでくれる。



『夜行』  
森見登美彦 著  
小学館 2016  
913.6||Mo 54

「夜はどこにでも通じているの。  
世界は常に夜なのよ。」京都で学  
生時代を過ごした6人それぞれが  
語る不思議な体験。全員に共通点  
があった…。



『秋の牢獄』  
恒川光太郎 著  
角川書店 2010  
913.6||Ts 76

「これは十一月七日の水曜日の物  
語だ。」朝起きるたびに同じ日を  
繰り返している大学生の藍は、同  
じ境遇の「リプレイヤー」と出会  
う。標題作の他2編を収録。



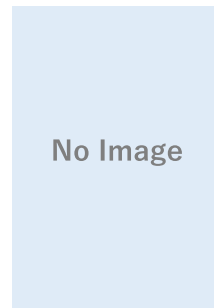
『かがみの孤城』  
辻村深月 著  
ポプラ社 2017  
913.6||Ts 44

学校へ行けなくなったところは、  
部屋の鏡が光り輝いていることに  
気づく。鏡の向こうにあったの  
は、城のような不思議な建物。そ  
こに7人の中学生が集められてい  
た…。全ての秘密が明らかになっ  
た時、心ふるえる物語。



『六番目の小夜子』  
恩田陸 著  
新潮社 2001  
913.6||O 65

高校に転校してきた、美しく謎め  
いた津村沙世子。  
高校で受け継がれている奇妙な  
ゲーム「サヨコ」。今年「六番  
目のサヨコ」の年。  
学校にただよう不思議な空気がリ  
アルに感じられる。



『パラレルワールド・  
ラブストーリー』  
東野圭吾 著  
中央公論社 1995  
913.6||H 55

親友の恋人は、自分も想いを寄せ  
ていた女性だった…。交互に描か  
れる2つの世界。謎が謎を呼ぶ先  
には、驚愕の真実があった。



『ワクチンX』  
桂望実 著  
実業之日本社 2015  
913.6||Ka 88

20XX年。性格を変えられる夢のワ  
クチン。それが突然生産できな  
くなった。ワクチンの効果は20年。  
自分ならどうするか、考えずには  
いられない。

No Image

### 『スキップ』

北村薫 著

新潮社 1995

913.6||Ki 68

17歳の真理子は、目覚めると42歳になっていて、夫と17歳の娘がいるのだった。スキップした25年。真理子はどうする？どうなる？



### 『星新一ショートショートセレクション4 奇妙な旅行』

星新一 作

和田誠 絵

理論社 2002

913.6||H 92||4

図書館の朗読会「2018年未来の旅」でも取り上げた星新一作品。短いのに奥深い、奇妙な旅行へ出かけてみませんか？

## Book design

### の世界

vol. 3

鈴木 久美 さん

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本の外装をデザインする仕事を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載ではデザインや装丁家の仕事から、本を楽しみたいと思います。第3回目は、鈴木久美さんです。

鈴木久美さんは、東京造形大学造形学部デザイン学科卒業後、角川書店装丁室に勤務。2014年に独立されました。赤川次郎『三毛猫ホームズシリーズ』、内田康夫『浅見光彦シリーズ』など、文芸書の装丁を中心に活躍されています。

一冊目はこちら『リバース』（湊かなえ著／講談社／2015年／913.6||Mi 39)です。カバーに配置された黒い楕円。よく見るとコーヒー豆。シンプルながら、作品に登場するコーヒーがアクセントになっています。表紙・見返しの黒の中に、標題紙・花布・しおりひもの鮮やかな黄色が効いています。



続いて『ジョーカー・ゲーム』（柳広司著／角川書店／2008年／913.6||Y 52)です。ミステリースパイ小説「D機関シリーズ」の一作目。漫画家・イラストレーター森美夏さんのクールな装画に惹きつけられます。この本もダークカラーの中に、赤色が挿し色となっています。



装画：森美夏

### 『愛蔵版 モモ』

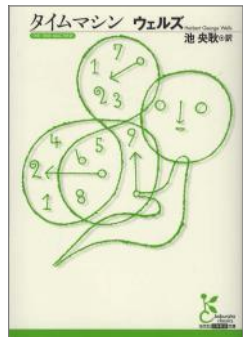
ミヒヤエル・エンデ 著

大島かおり 訳

岩波書店 2001

943||E 59

不思議な少女・モモと旅しながら、「時間」について考えさせられる名作。思い出す、本を読んで初めてハラハラドキドキした時のこと。



### 『タイムマシン』

ウェルズ 著

池央耿 訳

光文社 2012

933||W 57

時空を超えるタイムマシンを発明した時間旅行者—タイムトラベラーが語る、80万年後の世界。SF小説の不朽の名作。

今回の旅はいかがでしたか？  
またのご参加をお待ちしております。

不思議な旅 ✂

『濱地健三郎の霊なる事件簿』(有栖川有栖著/KADOKAWA/2017年/913.6||A 76)。透け感のある紙にミステリアスな装画が浮かびます。著者の有栖川有栖さんはあとがきの中に、「この物語にどんな表紙が似合うのか想像がつきかねていたところ、観るものを存在の深みに導くかのようなササキエイコさんのイラストを装丁の鈴木久美さんがデザインし、「あっ」という驚く素晴らしいものになりました。」と書かれています。



装画：ササキエイコ



装画：中島梨絵

『あの子が欲しい』(朝比奈あすか著/講談社/2015年/913.6||A 82)は、就活をテーマにした作品です。表と裏には同じ絵が使われていますが、配置が変わっているので印象が違って見えます。

『雪の鉄樹』(遠田潤子著/光文社/2016年/913.6||To 17)。タイトルの鉄樹とはソテツのこと。カバーには、霜のおりた葉の写真が使われています。作品のもつメッセージを静かに伝える装丁です。



写真：Syunichi Yamamoto

『みかづき』(森絵都著/集英社/2016年/913.6||Mo 41)は、昭和から平成の塾業界を舞台にした物語です。「学校教育が太陽だとしたら、塾は月のような存在」という言葉からタイトルがつけられたそうです。装丁には、紙を貼り合わせて制作している水谷有里さんの作品が使われています。三日月が浮かぶ空の美しい色あい引き付けられる装丁です。



装画：水谷有里

『マカン・マラン 二十三時の夜食カフェ』(古内一絵著/中央公論新社/2015年/913.6||F 94)は、あたたかみを感じる紙を使用し、おしゃれなカフェテイストの装丁に仕上げられています。おいしいそうなスープからふわわりといい香りが漂ってきそうです。



装画：西淑



写真：川しまゆこ  
料理：ムラヨシマサユキ

『ときどき旅に出るカフェ』(近藤史恵著/双葉社/2017年/913.6||Ko 73)、こちらの装丁にもスープが使われています。写真を使ったかわいい印象の装丁です。作品にも出てくる苺のスープを、目の前にした時の驚きと嬉しさを味わうことができます。

『春、戻る』(瀬尾まいこ著/集英社/2014年/913.6||Se 76)は、主人公・さくらの前に兄と名乗る青年が現れるところから物語が始まります。装画のリースには、さくらと和菓子。物語の空気をそっと含んだあたたかな装丁です。



装画：宮入のあ



装画：岩崎絵里

今回、最後に紹介するのは『つぼみ』(宮下奈都著/光文社/2017年/913.6||Mi 83)。凜としていて、穏やかに語りかけてくる装丁。絵の周りを金色の円でさりげなく飾ってあったり、見返しには葉の模様のついた紙を使っていたりと、静かに、だけど確かに、物語の世界観を伝えています。

今回の鈴木久美さんの装丁を通して、本と装丁のすてきな関係を楽しむことができました。次回もお楽しみに。





## ちょこちょこ日記 #12 「運命の出会い 2」

前にも 運命の出会い について書いたことがあります。(3回  
目のちょこちょこ日記でした。)

私、また図書館で運命の出会いをしてしまいました。お相手  
は今回も、もちろん本です♡

宮下奈都さんの『スコーレNo.4』(光文社/913.6||Mi 83)。

私の本かと思いました。自分のために書かれた本じゃないか  
と思いました。同じような体験をしたわけではないけど、言葉に  
できなかった思いが思っていたように言葉になっていたり、後  
悔したり悩んでいることにそっと寄り添ってくれるような、そ  
んな作品でした。

それから、友達がおすすめしてくれた、原田マハさんの作品  
もよかったです。アンリ・ルソーの絵画をめぐる物語『楽園の  
カンヴァス』(新潮社/913.6||H 32)。それから、言葉の力に魅  
了された『本日は、お日柄もよく』(徳間書店/913.6||H22)。  
どちらも、本当にすごかった！

こういう出会いがあるから本を読みたくなるんだなあ。  
運命の出会い、ありがとうございます！

## こんな本読んでみて No.72

2018年8月1日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>